

ひたちサンドアートフェスティバル 2013

2013年7月14日(日)に、ひたちサンドアートフェスティバル 2013が開催されました。ひたちサンドアートフェスティバルとは、地元である河原子海岸で開催される、夏の海の祭りです。砂浜に大型砂像を多数作成するほか、各種スポーツイベントや音楽イベントを盛り込み、海開きを迎える河原子海岸をにぎやかに彩ります。イベントの締めは、6分間の劇場型花火です。

ひたちサンドアートフェスティバルは、行政ではなく、地元の若者たちによって作り上げられている点に特徴があります。主催は日立青年会議所です。茨城キリスト教大学の学生たちも、毎年スタッフとしてイベントに加わり、重要な役割を果たしています。今年、大学のボランティア学生129名と教員1名が参加しました。

ひたちサンドアートフェスティバルは、今年で4回目の開催になります(チャレンジフェスを含めると6回目)。同イベントは、年々充実してきています。今では、日立の街を代表する祭りの一つになりました。今年はいにくの曇り空でしたが、それでも5万人近い来場者を集め、大盛況でした。

【企画会議 (本番1カ月前)】



1. 全体説明会

本学 11 号館にて。青年会議所のメンバーと学生ボランティアリーダーたちによる、第二回ミーティングの様子です。イベントの細部を打ち合わせました。



2. 企画会議

会議の最後は、合言葉「Believe All」。イベントの成功を皆で誓います。

【砂像の作成開始 (本番1週間前)】



3. 砂像作成

砂像の作成には1週間かかります。写真は、海岸に組み立てられた砂像の土台です。上から砂像を彫っていき、順に下の土台の枠を外していきます。砂像は崩れやすく、枠を外すと上段の修正はできなくなります。



4. 本学学生たちによる中型砂像の作成

本学の学生チーム「チーム☆砂」が、中型砂像を作成しています。市内を中心に、約10チームが中型砂像を作成しました。コンペが行われるため、気合が入っています。



5. 大型砂像

こちらはプロの彫刻家による、高さ約4mの大型砂像です。ガネーシャが彫られています。写真中央に写っている白い容器は、砂像を固める「グルー」の噴射器です。



6. Tシャツ

イベントでは、大型砂像のガネーシャがデザインされたTシャツとタオルを販売します。合言葉「Believe All」もプリントされています。



7. 重機を運転する本学の学生

多彩な技能を持つ学生が多いです。



8. 砂像の作成

砂はもろく、油断をするとすぐに崩れてしまいます。崩れた砂像の修復は、極めて困難です。



9. ゲリラ豪雨

急に大雨が降り出しました。ゲリラ豪雨は1時間続きました。



10. ゲリラ豪雨

砂像はグルーで固めてあるので、多少は耐久性があります。それでも、一部崩れてしまいました。



11. 砂像の作成

平日の昼間は授業があるため、学生たちは夜に海岸に集まり、砂像を作りました。他の砂像作成チームも、みな仕事帰りに砂像を彫っていました。夜の河原子海岸は賑やかでした。



12. 砂像の作成

こちらは、会社を挙げて砂像を作成しているチームです。大型砂像を作っています。チームには職人さんも含まれており、クオリティの高い砂像が出来あがってきました。

【イベント当日】



13. 学生ボランティアの集合写真

早朝の河原子海岸です。本学の学生ボランティアが集結しました。昨年（80名）を大きく上回る人数（129名）です。ひたちサンドアートフェスティバル・スタッフの主力部隊です！今年のスタッフ T シャツは、砂像をイメージした色使いです。当日朝の河原子海岸は、うっすらと霧がかっていました。



14. チームの割振り

スタッフの仕事は多種多様です。チームごとに分かれ、担当部署に異動します。



15. 開場前のメインステージ

まだ人の入りも少なく、閑散としています。



16. メインステージの準備

今年も、司会は吉本のお笑い芸人「オスペンギン」。会場を沸かせてくれました。写真は、事前打ち合わせの様子です。



17. 小型砂像

小型砂像の土台作成チーム。子どもたちが砂像作成の体験をできるように、ボランティアの学生たちが小型砂像の土台を作っています。底が抜けたポリバケツに砂を 1/5 程度詰め、水を入れて踏み固めます。この作業を何度か繰り返すと、ある程度の強度がある砂の土台が出来上がります。一日で、土台を 100 個以上作らねばなりません。



18. アクアボール

アクアボールの準備の様子です。子どもが中に入った状態で空気を入れ、アクアボールを作っていきます。



19. アクアボール

アクアボールで遊んでいる様子です。ボールが流されないよう、紐でつないであります。安全確保のため、ライフセーバーが監視しています。



20. メイン会場

来場者が増えてきました。



21. 小型砂像

子どもたちが小型砂像を彫り始めました。マスコミも取材に来ていました。



22. 小型砂像

砂像を彫るだけでは飽き足らず、土台作りに参加した小学生の男の子です。大学生のお兄さんに教えてもらいながら、土台作りを楽しんでいました。



23. メイン会場

正午近くになり、来場者も随分増えてきました。ようやく霧が晴れ、少しずつ日差しも強くなってきました。



24. イベントロゴ

日立青年会議所が作成した、イベントロゴの砂像です。今年のテーマは「逢」です。



25. 大型砂像

プロが作った大型砂像。圧巻です。本物の石造のような出来栄です。



26. 大型砂像

大型砂像の裏側です。細部まで精緻に彫り込まれています。



27. 本学学生作成の中型砂像

子ども人気のキャラクターです。



28. 中型砂像

こちらはライフセイバーの皆さんの作品です。



29. 中型砂像

芸術家の方による作品。県外から参加してくれました。



30. 中型砂像

こちらも子どもに人気のキャラクターです。



31. 中型砂像

青年会議所の作です。初代（細身のモアイ）が崩れてしまったため、横幅を増した強度の高い像に切り替えました。



32. 中型砂像

こちらは可愛いネコちゃんです。



33. 観覧席

砂像の展示会場に高所作業車が配置され、上から砂像を観覧できる工夫がなされています。



34. 屋台村選手権

今年は、「屋台村選手権」を開催しました。市内の飲食店が屋台を出し、自信のB級グルメを1品200円で販売しました。会場には、工夫を凝らした料理が並びました。



35. 屋台村選手権

日立のB級グルメが勢ぞろい！



36. 屋台村選手権

来場者は、自分が気に入った屋台の投票券（食券の一部）を、屋台村ブースの投票箱に入れていきます。写真は、投票所（兼 食券販売所）で働く学生たちです。



37. 遊覧船乗り場

日立港をクルージングする遊覧船乗り場です。このほかに、バナナボートも運行されました。



38. 遊覧船

ヨットに乗り込み、クルージングを楽しみます。



39. パンポン選手権

日立市が生んだ郷土スポーツ（？）、パンポンの競技会場です。工場の休憩時間に従業員が始めたのが、パンポンの由来だそうです。市内の学校では、体育の種目に取り入れられています。



40. 本部受付

本部テントには、各種案内のほかに、看護師さん控え室や警官控え室などが併設されています。また、寄付金の受け付けやサンドアートTシャツの販売、抽選会場なども、本部テントで行われました。



41. 本部受付

抽選会場で働く本学の学生。募金をしてくれた方が、抽選箱を回すという仕組みです。1等賞は、日立製作所提供の最新式全自動洗濯乾燥機です。さすが企業城下町！



42. ビーチサッカー

南浜では、スポーツ少年団によるビーチサッカー・ビーチバレーの大会が開催されました。ちなみに、北浜ではサーフィン大会が同時開催されました。



43. 河原女子将会のブース

河原子旅館組合が誇る、河原女子将会のブースです。オリジナルカレーを出品していました。



44. 水鉄砲サバイバル大会

小学生による水鉄砲サバイバル大会の様子です。一緒に遊んでくれる大学生のお兄さん・お姉さんたちが、格好の標的になっていました（笑）。



45. 会場清掃

イベントをスムーズに運営するためには、多くの裏方作業が必要となります。学生たちは、会場清掃や駐車場整備、船の誘導などの裏方作業を、率先してこなしてくれました。上の写真は、会場清掃の様子です。学生たちのガンバリを見ていたためか、ゴミを捨てていく人はほとんどいませんでした。



46. ステージ進行

ステージ進行係の学生です。出演者の誘導などを受け持っています。イベントの進行が遅れると、進行係にクレームが集中します。地味で大変な仕事です。よく頑張ってくれました。



47. シャトルバス

河原子海岸周辺は来場者が殺到するため、自動車の乗り入れは原則禁止です。代わりに、日立電鉄によるシャトルバスが無料運行されました。警備員さんが、バスを誘導しています。

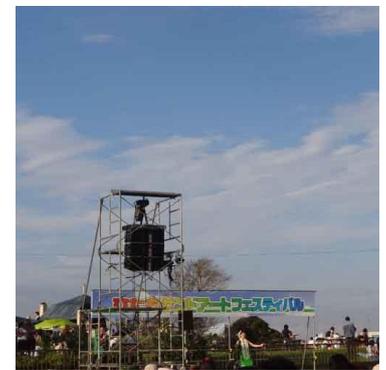


48. 河原子のランドマーク「烏帽子岩」



49. 協賛企業

サンドアートフェスティバルは、地域の方々の協賛金により運営されています。今年も、大勢の方が協賛して下さいました。感謝です。



50. 青空

夕方近くになり、ようやく青空が見えてきました。



51. 本部ステージ

本部ステージの様子です。イベントの盛況ぶりが伺えます。



52. 中型砂像のコンペ

本学の学生チームが、第3位に入賞しました。おめでとう！！写真は、表彰される学生たちです。



53. 卒業生たち

卒業生たちが、遊びに来てくれました。歴代のサンドアートを支えてくれた学生たちです。みんな、本当にありがとう！



54. サブ・ステージ

会場奥に設置されたサブ・ステージでは、DJやダンサー達による演奏が続いていました。こちらも大盛り上がりでした。



55. 劇場型花火の準備

イベントの最後は、劇場型花火です。音楽に合わせ、一斉に花火を打ち上げます。花火の打ち上げはコンピューター制御です。配線が切れたら大変なので、コードを配置したエリアはポールで囲み、立ち入り禁止としました。万一のため、スタッフ総出で警備に当たります。



56. 劇場型花火の準備

学生たちが警備の配置につきました。花火は、写真右手の堤防から打ち上げられます。実は、学生たちが一番の特等席を陣取る形です。



57. 劇場型花火

劇場型花火は、有名な野村花火工業が打ち上げます。2曲に合わせて、次々に花火が打ち上げられていきます。花火は、河原子港の狭いスペースで打ち上げられます。そのため、大迫力で花火を楽しむことができます。頭上で炸裂する花火は、まるで火花が降り注ぐかのようです。あまりの美しさに、感動して泣きだす学生もいました。来年は、ぜひ皆さんもご覧下さい。感動すること請け合いです！

【撤収作業】



58. プロポーズ

本学の卒業生が、劇場型花火の際に彼女にプロポーズし、見事成功させました。おめでとう！！彼は、第一回サンドアートフェスティバルの時に砂像を作ってくれた学生です。彼らにとって、サンドアートは大切な思い出になることでしょう。



59. 撤収作業

イベントが終了すると、すぐに撤収作業が始まります。イベントの終了を見つけたかのように、雨が降り出しました。



60. 撤収作業

雨の中、学生たちは一生懸命撤収作業を手伝ってくれました。おかげさまで、迅速に作業が進みました。本当に充実した一日でした。

歴代のひたちサンドアートフェスティバルの様子は
こちらをクリック！

<http://www.icc.ac.jp/inobweb/sandartfes.html>